

「わあ、楽しそう!」「はやく、読んでみたい!」「あの本あるかな?」「もっと、読みたい!」そんな子どもたちの声が聞こえる図書館を目指して、図書館の運営や環境づくりがされています。

こども図書館の地図

どこにどんな本があるか、分かりやすく地図になっています。貸し出しカウンターがすぐ横にあり、分からなかったら、すぐに尋ねることもできます。



季節に合わせた本の紹介

アジサイ、カタツムリが子どもたちに「元気になあれ」と呼び掛けています。



学年に合わせた本の紹介



子どもたちが本を選びやすいように、おすすめの本を学年ごとに配架されています。

興味をもっていることや趣味の本の紹介

子どもたちが、自分の興味をもっていることで、見つけやすいように配架されています。



6・7月の展示・掲示あれこれ

毎月、図書館ならではの
展示・掲示を紹介します！

本の帯、カバー（紙に腰があり、色があざやか）を使って 夏らしく、さわやかに！

☆ アジサイは 花びらを立てて 立体的に！

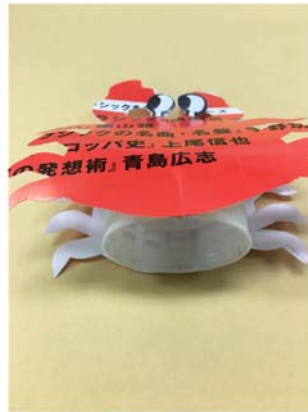


紙を丸めた物や円形の物に花びらを貼ると、こんもり立体的なアジサイのできあがり！



☆ 段ボールと本の帯やカバーを使って作った魚を泳がせてみましょう。
おすすめの本は、青い布の上や近くに貝殻を置いて夏らしく！

段ボールの箱の中に、ひもでぶら下げた魚を泳がせています。カニや海藻は、ペットボトルのふたをはさむと立たせることができます。



☆ 夏の花といえば、ひまわり！
夏の太陽をいっぱい浴びた、大きな大きなひまわりを作ってみましょう。子どもたちと一緒に作るのもよいですね。

花びらに切り目を入れると立体的になります。中の種の部分はパスで自由にさまざまな模様を描くと楽しいひまわりが出来上がります。



7月生まれの文学者たち



森山 京（もりやま みやこ）ときいろいバケツ

昭和4年7月10日 東京都生まれ

森山京氏は、40歳から創作を始め、昭和43年「子りすが五ひき」で講談社児童文学新人賞佳作を受賞しました。「きいろいばけつ」「つりばしゆらゆら」などの「きつねのこ」シリーズで路傍の石幼少年文学賞、その後、小学館文学賞、野間児童文芸賞、ひろすけ童話賞を受賞し、平成21年「ハナと寺子屋のなかまたち」で赤い鳥文学賞を受賞しました。

ロングセラーの「きいろいばけつ」「おおきくなったら」「ともだちほしい」の主人公の動物たちには、名前もつけず、ただうさぎの子、きつねの子として登場させ、個性豊かに動物たちを描いています。

森山氏は、化粧品の宣伝コピーとしてとても有名で「25歳はお肌の曲がり角」という言葉をつくった人として知られています。

上橋菜穂子（うえはしなほこ）と精霊の守り人



昭和37年7月15日 東京都生まれ

上橋氏は、幼い時から父方の祖母から多くの民話を聞くだけでなく両親からも多くの本を読んでもらいました。多くの物語を読むとともに幼い時から物語を作ることも目指していました。

「精霊の守り人」は、バルサという30歳の女用心棒が、新ヨゴ皇国の第2皇太子チャグムを助け、守るために奮闘する物語です。ある程度若くて経験豊かな大人の女性が少年を守って戦うというイメージと、精霊や神という異界と人の世界がふれあう時に生じる不思議な世界に関係するという二つのイメージで物語を書いてみたいと思い、この物語を一気に書き上げました。「守り人シリーズ」は、物語に関連性があるので、次の順番で読んだ方がよいそうです。

1. 「精霊の守り人」2. 「闇の守り人」3. 「夢の守り人」4. 「虚空の旅人」5. 「神の守り人」<来訪編>6. 「神の守り人」<帰還編>7. 「蒼路の旅人」8. 「天と地の守り人」第1部<ロタ王国編>9. 「天と地の守り人」第2部<カンバル王国編>10. 「天と地の守り人」第3部<新ヨゴ皇国編>

あとがき

☆ 学校に元気な子どもたちの声もどってきました。長い間家庭でさまざまな過ごし方をしていた子どもたちは、心が落ち着かなかったり、体が疲れたりすることもあるでしょう。そんなとき、読書や、図書館が心を落ち着かせたり、休めたりできる場所になればいいなと思います。

☆ 「福岡アジア美術館」及び「福岡市総合図書館」で毎月行われている「お話し会」は、現在のところ新型コロナウイルス感染症の対応のため予定は未定です。

図書館員のひみつの本棚 第170回

今月は「雨」が書名に入っている本を選びました。

『雨あがりのメデジン』

アルフレッド・ゴメス＝ゼルダ／作 宇野 和美／訳 すずき出版 2011年 ¥1400 (税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★★☆ 小高学年★★★★ 中学生★★★★
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

舞台は南米コロンビア第2の都市メデジン。10歳の少年カミーロは、学校に行かず、毎日親友のアンドレスと町をぶらぶらしています。カミーロ達が住んでいるのは、メデジンを囲む山の中腹にあるバリオ。貧しい家が立ち並ぶ地区です。

この町の人達には誇りにしているものが二つあります。メデジン市街とバリオを結ぶロープウェー「メトロカブレ」と、数か月前に建てられた公共図書館です。

カミーロはこの町を愛していましたが、町の誇りである図書館には決して近づきませんでした。前は学校に行っていたので、字が読めないわけではありません。別の理由があったのです。

<子どもに手渡す時のポイント>

舞台は日本の子どもたちに馴染みのない場所ですが、著者があとがきに「これは国境のない本です。」と書いているように、世界中の子どもたちの心に届く物語です。

物語に出てくるスペイン公園図書館は実在し、インターネットでもその特徴的な建物を見ることができるので、本と一緒に紹介すると子どもたちの興味がわくかもしれません。

物語の中で少し触れられている、メデジンの歴史や文化などは、訳者あとがきに詳しく説明があります。知りたいという子にはあとがきを読むことを勧めてもらうとよいと思います。

この作品はスペイン児童文学界最大の賞、国民児童文学賞を受賞し、メデジンではミュージカル化もされています。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

発行： 福岡市教育委員会 総合図書館 図書サービス課

電話： 092-852-0639 FAX： 092-852-0801